

## 第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

奈良教育大学 3 回生 木村 直希

### 1. 単元名 「佐保川について知ろう、考えよう、伝えよう」

### 2. 単元の目標

- ・ 先人達が作り上げた佐保川の景観、その景観を残そうと思った人達の思いを理解することが出来る。  
(知識・技能)
- ・ 佐保川の良さを見つけ、伝えられるようにする。  
(思考・判断・表現力等)
- ・ 佐保川を後世に残すため地域と関わり、協力しようとする態度を養う。  
(学びに向かう力・人間性等)

### 3. 単元について

#### (1) 教材観

本単元では奈良市内に流れる「佐保川」をテーマとして取り上げる。佐保川は桜並木が有名な場所で長年にわたり地元の人に愛され、憩いの場となっている。佐保川の歴史は古く、万葉集にも登場している。また室町時代には南都八景で佐保川の蜩が選ばれ、江戸時代には奈良の名所絵図に描かれていたことから広く知られ親しまれていた。加えて奈良奉行の川路聖謨の呼びかけによって桜の木が興福寺や東大寺を中心に、高円や佐保地域など様々な場所に数千本の植樹が行われた。佐保川にも川路聖謨が植樹をした桜の木が今も数本現存している。この桜は川路桜と呼ばれ、今でも春になるとたくさんの花を咲かせ地域の人達に愛されている。当時、川路は木が枯れても後世の人達が新たに植樹をして皆が楽しめるよう景観維持に努めてほしいと「植桜楓之碑」に気持ちを残していた。この石碑は猿沢池、五十二段を登った場所に現在もある。そのため川路桜以降にもたくさんの桜の木が植林され現在も桜並木が残っている。戦時中になると被弾する桜の木もあったが、生き残り今も現存している。現在は地域の人達によって佐保川清掃が行われ川や木の保全活動が行われてきた。佐保川清掃は昭和35年から今日に至るまで地域の人達によって続けられてきた清掃活動である。近年、川の清掃や保全活動により、水質が改善され南都八景であった佐保川の蜩も確認されている。また春になると桜まつりが行われ川沿いには行燈や提灯が設置され大いににぎわっている。小学校の前には環境との関わりを深める場として「水辺の楽校」がある。ここでは生き物観察や川のデッサン、文化鑑賞など地域の子どもの学びの場として、春には花見のスポットなど様々な場面で活用されている。

このように佐保川にはとても深い歴史があり、過去から現在まで多くの人に愛されてきた。しかし近年、観光客によるマナー違反や木の高齢化、立ち入り禁止区域での花見やバーベキューなどこれまで守られてきた佐保川の景観が損なわれる事例が多発している。そのため先人達がどのような思いでこの景観を残し、繋いだのかを考え、どのような行動を取るべきか考えさせる教材である。

#### (2) 児童観

本学級の児童はこれまで様々な場面で佐保川を題材にした授業を経験しており、佐保川清掃を経験した児童も多数いる。そのため佐保川の環境については詳しく知っている。しかし、歴史や保全活動が行われている背景についてはあまり知らないと考えられる。佐保川はとても身近な存在であるため興味を持っている児童は多く、学習に対して意欲的に取り組めるだろう。

#### (3) 指導観

佐保川を様々な角度から知ることで先人達がどのような思いでこの地域を守ってきたのか考えさせる。また自分達はどのような行動を取ることができるのか行動変容を促したい。

本単元ではまず児童達へ佐保川について知っていること、おすすめスポットなどを挙げさせる。そこで出た意見をもとに現地でフィールドワークを行い佐保川の情報を整理して佐保川の魅力を再認識させる。フィールドワークへ行った時に川路桜を見学し、樹齢が100年を超える木が存在することを児童に気づかせる。

次にフィールドワークで出た意見や疑問に加え、川路桜がなぜ佐保川にあるのか調べ学習を行う。ここではどのような思いで江戸時代から植林が続けられてきたのか、佐保川にはどのような歴史があるのかなど調べさせる。また現在佐保川が抱える課題について考え、どのような保全活動が行われているのか調査する。

最後に自分達は今後どのような活動を行うことができるのか考えさせる。また考えた内容と調べ学習で調べた内容をポスターにまとめて発表を行う。

#### (4) ESDとの関連

○本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- ・地域と協力して佐保川を守ること（連携性）
- ・自分達の行動が佐保川へどのような影響を及ぼすのか考えさせる（責任性）
- ・桜の木や水質など自然環境の資源に限りがあることを自覚すること（有限性）

○本学習で育てたいESDの資質・能力

- ・つながりを尊重する態度

地域の人達がこれまで受け継いできた桜を次世代へ繋ぐため人との関わりを意識する。

- ・未来像を予測する力

佐保川の歴史や先人達の思いから環境保全の観点を養い、未来について考える。

○本学習で変容を促すESDの価値観

- ・自然環境・生態系の保全を重視する

自然環境を維持することで生態系が守られていることを理解する。自然を守る大切さや保全活動に参加する態度を養う。

○達成が期待されるSDGs

- 11 住み続けられるまちづくりを
- 15 陸の豊かさを守ろう

#### 4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 佐保川の魅力を見つけている。 ② 佐保川の景観や環境を作り上げた先人達の考えを理解している。 ③ 佐保川の景観や環境を残そうとした人がいることを理解している。	① 佐保川の魅力をまとめ、他者に伝えている。 ② 佐保川の学習から問いを見出し、解決に向けて情報を整理しようとしている。	① 佐保川を自分達でどのように守っていくか考えている。

5. 単元の指導計画（全 22 時間）

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価（△）
1	○佐保川について知っていること、おすすめの場所について考える。	・フィールドワークへつながるように児童達の意見を掘り下げておく。 ・なぜ知っているのか、なぜおすすめするのかを問う。	△ア 1
2 3	○フィールドワークを行い、前の時間に出た場所を巡る。	・児童に紹介させるなどできるだけ児童主体でフィールドワークを行う。今後の授業で活用するため気になる所の写真を撮らせる。 ・川路桜の前を通り紹介をする。	△ア 1
4 5	○フィールドワークで出た意見を考える。 ○川路桜がなぜあの場所にあったのか考える。	・フィールドワークで出た意見を調べ学習へ繋げる。出た意見や写真の中からなぜ気になったのか考えさせ、調べたいことを書かせる。 ・川路桜が樹齢 100 年を超えていることに注目させ、昔ここに桜の木を植えた人がいることに気づかせる。	△ア 1
6 7	○100 年以上も前になぜ佐保川へ植林をしたのか考える。 ○インターネットや学校図書館を使い佐保川の歴史を調べる。	・川路聖謨の気持ちを考えさせる（なぜ植林を始めたのか）。 ・万葉集に登場したこと、南都八景で描かれていたことなど様々な佐保川の歴史を調べさせ、佐保川が昔から親しまれていたことに気づかせる。	△ア 2 △ア 3
8 9	○調べた内容をまとめる。 ○先人達の思いを考える。	・「植桜楓之碑」を紹介して後世の人達へどのような思いで桜の木を植えたのか考えさせる（この石碑から木を今後どのように受け継いでほしいと書かれていたのか考えさせる）。	△ア 2 △ア 3
10 11 12	○佐保川の桜を守るためにどのような取り組みが行われているのかを知る。 ○桜の保全活動を行う地域の方からお話を伺う。	・児童達の知らないところで様々な活動が行われていたことに気づかせる。 ・次世代を担う児童たちにどのような思いで桜を守っているのか気づかせる。	△ア 3 △ウ 1
13	○現在、佐保川が抱える課題を考える。	・フィールドワークで課題として気になる場所が出ていたら取り上げる。 ◎観光公害を紹介する。	△イ 2

		児童から佐保川で（特に桜の時期）困った経験はないか？ ない場合はポイ捨てや折れた桜の枝の写真を用いて観光公害について考えさせる。	
14 15 16	○佐保川を守るためどのような取り組みが行われているのかわかる。 ○地域の清掃活動を行っている委員会の方からお話を伺う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐保川清掃など児童達の実体験を引き出して考えさせる。</li> <li>・児童達の知らないところで様々な活動が行われていたことに気づかせる。</li> <li>・どのようにして保全活動をしているのか考えさせる。</li> <li>・児童達にもできる活動を教えてもらう。</li> </ul>	△ア3 △ウ1
17	○教えてもらった内容をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような思いで清掃活動、保全活動を行っていたか考えさせる。</li> <li>・桜と川の保全活動に携わる人から話を聞いたことで、共通してどのような思いを持っているのか考えさせる。</li> </ul>	△ア2
18 19	○まとめた内容をポスターに書き校内に掲示をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューして気が付いた内容や地域の人達が語っていた思いに触れている。</li> <li>・考えた内容を他の学年にも伝えている。</li> </ul>	△イ2
20	○自分達にできることは何か考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先人達の思いを知り、自分達にどのような活動を行うことができるのか考えさせる。</li> <li>・委員会の方から教えてもらった話を思い出させる。</li> <li>・今後何が出来るのか考える活動を行い、児童たちが自主的に活動する時の手助けになるようにする。</li> </ul>	△ウ1